

愛称通りを歩く⑦

き 仙気稲荷通り



元八幡通りから明治通りまでが仙気稲荷通りです。元八幡通りと同じく関東大震災前までは元八幡通りでした。

「葛西橋通りの交通渋滞抜け道として、普段は車の往来が激しい通りでしたが、荒川河口橋が開通したためか、車の数がめっきり少なくなり安心してお買物ができますよ」と仙気稲荷通り会の川崎道夫会長。元八幡通りと仙気稲荷通りの名物「歩行者天国」がこの11月3日(日)に開催されます。お買得商品はもちろん地元の子供たちの鼓笛隊パレードや組太鼓などのほか緑日屋台も並ぶそうです。

また、この通りには江戸時代から続く延命子育地藏尊があります。昭和47年に仙気稲荷通り会が小祠

を新築し、地藏尊の主守をしています。

仙気稲荷通りの由来はこの付近に砂村稲荷神社があり、文化・文政(一八〇四〜二九)のころから疝気の病に靈験のある「砂村の疝気稲荷」として栄えましたが、昭和42年に千葉県習志野市に移転。現在は当地(南砂三丁目)に旧跡保存のため稲荷小祠が地元有志により建てられています。

